

美香保中学校区コミュニティ・スクール

令和8年度 第3回学校運営協議会 会議議事録

～ 児童・生徒の自治的な活動への支援を目指して ～

1. 会議概要

日時	令和8年9月7日（月） 16:15～17:30
会場	札幌市立美香保中学校 2階多目的室
出席者	藤原、山本、真鍋、橋本、森野、渡部、壽原、菊地、佐藤、北、小山、守本、加藤、澁谷、齋藤、杉本、守屋
欠席者	水口、桑山
議題・テーマ	1. 開会挨拶 2. 地域学校協働活動「みかほっ子応援団」登録状況報告 3. 「みかほっ子運営委員会」の取組および今後の見通し報告 4. 熟議「自治的な活動への支援について」（3グループ別熟議・全体発表） 5. 終わりの挨拶・総評

2. 開会挨拶

【藤原委員長 挨拶】

会議冒頭、多くの委員および傍聴者の参加に対する深い感謝が述べられた。会に先立ち開催された「みかほっ子サミット」において、小・中学校の児童生徒から多角的な意見が出されたことを高く評価し、今後も協議会やサミットがリラックスした雰囲気（ソフトな感じ）で活発な意見交換ができる場であり続けることへの期待が表明された。

【山本委員（美香保中学校校長） 挨拶・導入】

みかほっ子サミットは、多くの見学者が見守る中での開催となり、当初は役員や児童生徒に緊張が見られたものの、後半には対話が大変活発化した様子が報告された。児童生徒からは「挨拶の励行」や「顔見知りになる取組」など、地域の繋がりを深めるための柔軟かつ本質的なアイデアが出されたことが紹介された。協議会のあり方として、「決定することのみを目的にするのではなく、対話を通じてアイデアを募り、各自が現場に持ち帰って活かしていく」ことの重要性が再確認された。

3. 報告事項

（１） 地域学校協働活動「みかほっ子応援団」の登録状況（報告者：高橋教頭）

前回の協議会での要望を受け、地域の人材バンクである「みかほっ子応援団」の登録データ（AIを活用して整理・分析）が報告された。現在、計 62 名の地域住民・専門家が登録しており、以下の４つのジャンルに整理して活用が図られている。

- ① **運動・スポーツ分野**：野球、バレーボール、サッカー、水泳、陸上、スキー等の技術指導および競技サポート。
- ② **文化・学習分野**：楽器演奏、合唱指導、音楽系大学の学生ボランティア、習字、着物の着付け、学習指導、プログラミング、データ分析、キャリア教育支援。
- ③ **生活のケア分野**：看護・医療分野の専門的知見に基づくサポート、SNS やインターネット安全利用に関する相談・支援。
- ④ **その他・アドバイザー等**：整理収納アドバイザー、主婦の知恵を生かした支援、登下校時の付き添い・見守り、各種ボランティア。

本応援団の名簿情報は、今後子どもたちの自治的活動や学校行事等の支援を実施する際のリソースとして積極的に共有・活用していく方針が示された。

（２） 「みかほっ子運営委員会」の取組および今後の見通し（報告者：澤本主幹教諭）

みかほっ子サミットの準備組織である「みかほっ子運営委員会」の取組経過と今後の展開が報告された。昨年度のサミットで児童生徒からあがった「異学年・他校・地域など多様な人と関わりたい」という声を受け、実効性のある取組へと反映させている。

【主な実践成果】

- **美中オリンピックの実施（７月 13 日）**：従来の学年別体育大会を改め、北ガスアリーナ札幌 46 にて全学年合同・異学年混合チームで実施。生徒主導で企画・運営を行った。
- **小中交流会の開催（10 月 27 日予定）**：北光小学校および美香保小学校の 6 年生（各約 70 名、計約 140 名）が美香保中学校を訪問し、5・6 時間目に中学生と直接交流を行う初の試みを実施予定。

【運営委員会の拡充と年間見通し（年 3 回開催）】

- **5 月 11 日**：第 1 回運営委員会（オンライン）：顔合わせ、年間の見通し共有。
- **7 月 28 日**：第 2 回運営委員会（対面）：小学生が中学校を訪問。札幌サミットに向けた事前協議および交流会向けアンケート共有。
- **9 月 7 日**：みかほっ子サミット・第 3 回学校運営協議会（本日）：自治的活動への支援に関する熟議。
- **10 月 27 日**：小中交流会：美香保中学校にて 6 年生と中学生の直接交流。
- **12 月 14 日**：第 3 回運営委員会：今年度の振り返りと次年度への発展検討。
- **2 月 25 日**：中学校説明会：小学 6 年生による授業見学・学校訪問。

4. 熟議「自治的な活動への支援について」

みかほっ子サミットでの児童生徒の発言を踏まえ、「3校（美香保中・美香保小・北光小）の自治的活動を地域や学校運営協議会としてどのように支援・後押しできるか」をテーマに、3つのグループに分かれて熟議を行った。熟議後の発表内容は以下の通りである。

A グループ

- **ポスター掲示等による発信支援**：子どもたちの「やりたいこと」や希望を地域に知ってもらうため、児童館やまちづくりセンターの掲示板等を活用してポスターを掲示する取組を支援する（マンション等では掲示制限があるため）。
- **異学年交流の推進サポート**：児童生徒の強い交流意欲に応えるため、教員の負担感に配慮しつつ、地域ボランティアや保護者が協力して活動をサポートする体制を整える。
- **「中1ギャップ」の緩和**：小学校6年生が中学校の雰囲気や生活を事前に知る機会をつくり、進学時の不安やギャップを和らげる支援を行う。

B グループ

- **地域の関係者・町内会との橋渡し**：お祭りでの発表など「自分たちの成果を披露したい」という子どもたちの意欲を、町内会や地域関係者に協議会としてしっかり伝え、実現に向けて調整・引率等のサポートを行う。
- **学校独自の強みの地域還元**：美香保小学校で力を入れている「縄跳び」など、各校の特色ある活動を地域のお祭りで発表する場を設け、地域の理解と参加を促す。
- **全世代対象の地域交流イベント企画**：合唱や部活動にとどまらず、「フルーツバスケット」のように小さな子どもから高齢者まで誰でも気軽に参加できる地域交流イベントを考案・実施する。

C グループ

- **イベント周知と学生ボランティアの活用**：地域のお祭りやイベントを知らない児童生徒に向けた情報共有の工夫を行う。教育実習生や大学生ボランティアの力を積極的に取り入れて活動を活性化させる。
- **「小中ペア」の創出**：小学校内の異学年ペア（お兄さん・お姉さんペア）の仕組みを小・中学校間に広げ、小学生と中学生がペアを組んで交流する試みを提案する。
- **3校共通のブランディング・一体感醸成**：美香保中・美香保小・北光小の3校共通のオリジナルTシャツ、ロゴマーク、キャラクターを制作する。「美中オリンピック」への小学生参加も検討する。
- **地域貢献活動の実施**：学校の枠を超え、地域の花壇の装飾や美化活動に小中学生が協働で取り組み、地域に貢献する体験をつくる。

5. 連絡

【山本委員（美香保中学校校長）】

次回は、令和9年1月14日（木）に美香保小学校にて「みかほっ子を語る会」が終了後、開催される旨の連絡があった。

6. 終わりの挨拶・総評

【橋本委員（北光小学校校長） 総評挨拶】

会議の締めくくりとして、北光小学校の橋本校長よりサミットおよび運営協議会の振り返りが述べられた。

- **対話・熟議の経験差と意識の掘り起こし**：中学生に比べて小学生は対話（熟議）の経験値に差が見られるため、小学校へ持ち帰り、全校的な対話の取り組みや教員・児童の意識の掘り起こしを進めていく必要がある。
- **熟議の本質と相互理解の意義**：熟議とは必ずしも即座に結論や決定を出すことだけを目的とするものではない。テーマに基づく話し合いを通じて、子ども・地域・学校を互いに理解し、関係性を深めていくプロセスそのものが極めて価値のあることである。
- **継続的な取り組みと協力の依頼**：昨夏の提案から1年かけて準備を進め、ようやく実現に至る10月27日の「小中交流会」のように、急がず着実に成果を重ねていく姿勢が大切である。学教委員の皆様に対し、今後とも小学校への変わらぬご協力とご支援を呼びかけた。

以上で第3回学校運営協議会を終了した。